

第16回マーケティングツアーに参加

1998年9月11日～20日

ヨーロッパ旅行

高 仁 鳳
(ko inbong)

第1日目 出発

朝9時に関西空港に集合。ざーっと説明と今回参加のメンバーの簡単な紹介があった。

飛行機はパリ経由でベルギーのブリュッセルへ。パリまで13時間、乗り換えてパリからブリュッセルへ、1時間ぐらい。

パリからブリュッセルへ向かうための乗り換えのとき、フランス入国カードを出した。そのときパスポートも一緒に出したが、係員はパスポートは見向きもせず、カードのみ受け取った。

ブリュッセル空港についてそのまま外へ。入国審査とか、税関とかなんにもない。そのまま、外へ出て迎える観光バスに乗ってホテルへ。その名はラディソンSASホテル・ブリュッセル。

夕食は先程、機内で食べたのがまだお腹に残っているので、食べたいと思わない。ホテル内のスナックのようなところに源地さんと二人でビールを飲んだ。源地さんはこの旅行でのひとつの部屋で一緒に泊まるパートナーだ。

第2日目 ブリュッセル

朝3時に目がさめた。パートナーの源地さんはまだ眠っている。あたりまえか。日記のようなメモを書くことにした。

5時ごろ外へ出た。寒い。近くになにかオペラ劇場のような建物があった。飲み物を買おうとコンビニのような店を探したが見当たらない。パン屋があった。うまそうなサンドイッチがあった。缶ビールも見えた。それで、缶ビールとサンドイッチを注文し、その店の中で食べた。源地さんに持って帰ろうと缶ビールとサンドイッチを持ち帰りに買ってホテルにもどった。

これら、かたことの英語で意思が通じた。うーむ、うれしい。外国での言葉が通じるということは、

ホテルの部屋に戻った。6時過ぎだ。源地さんも目を覚ましていた。私が買ってきたビールとサンドイッチを食べてくれた。実は、この部屋の冷蔵庫が故障で使えない。だから、飲み物が取れないのだ。

7時から、朝食。早めに済まして出かけることにした。

源地さんが町の風景とか看板を写真に撮りたいとのこと。また出かけた。ビールの広場のようなところまで出かけた。あとでわかったが、ここはマーケット広場という。つまり、市場の広場というところか。

朝10時、みんなでこのブリュッセル市内観光にでかける。天気はとてもいい。気候も寒くなく、暑くもなく気持ちいい。

世界ではじめて出来たという屋根着きアーケードを通り、広場へ進む。朝来たところをまた来たが、朝とはちがう、人がいっぱいだ。

そばになんとか像があって、その右腕をなでると幸せになるとか。皆さんその腕をなでなで。そして、つぶやく。この不景気吹っ飛ばせるようにと。

次は小便小僧を見に行った。なんとちいさい。こんなに小さいとは思わなかった。

とにかくこのブリュッセルはいい町だ。

私たちは観光バスに乗り、ブルージュへ。ブルージュへ着いて、ちょっと歩くと雨がふってきた。あんなに天気がよかったのに。

このブルージュのまちはほんとうにヨーロッパの古い街そのものだ。街全体がまるで、映画セットのようであった。馬車も走っていた。

教会があった。ノートルダム寺院。私たち一行はここに訪れた。中に入ってそのすばらしさに感動し、私はビデオをまわしつつけた。

しばらくして回りを見るとだれもいない。はぐれてしまったらしい。まわりを見まわった。しかし、一行は見当たらない。マーケット広場の方へ行った。このブルージュの町もマーケット広場があるのだ。しかし、そこにも見当たらない。絶対、ここに来るはずだとわたしは直感してる。ちょうど広場にパトカーのおまわりさんがいた。このおまわりさんに話



掃除を車でしている



腕をなでなでしあわせに



パンを配達、外におかれてる

小便小僧は
思ったより小さい

をして、助けてもらおうと、話しかけた。もちろん、片言の英語。話はこうだ。「私は日本からきた団体旅行者で、マキトラベルで、私が泊まっているホテルはここです。」それからホテルの電話番号を書いたカードを見せて「マキトラベルのガイドさんは携帯電話を持っていますからここにいてることを伝えてください」ということをおまわりさんに言おうとした。ちょうどそのときに、私を石田大成社の人が見つけてくれた。

午後4時まで自由時間。私はマーケット広場のまわりを見て回った。4時に全員集合して、再び、ブリュッセルに戻った。

夕食はマーケット広場のそばのレストランで取るとのこと。広場では、テントを張って、いろんなビールを集め、ピャーガーデンのような感じでビールを売っていた。営業は夜10時までとのこと。ならば夕食を済まして、ぶらっとここへ来れば、ビールが飲めるなあ、と思った。

こちらの人たち、ヨーロッパの人は比較的時間をかけて食事を取る。ガイドさんから、夕食は2時間ぐらいかけて食べて下さい。と言われた。

ところが、なんと食事が終わったのが、11時すぎ。3時間以上かかったのだ。あの広場でビールを飲む楽しみがパーになった。

第3日目 パリへ

ブリュッセルの飛行場から、パリへ。この辺の航空会社は時間にルーズのようだ。小さなデボネアという飛行機にのってパリに着いた。パリの空港はとっても大きくて広い。

ここも出るとき入国審査も税関もなく、そのまま観光バスへ。荷物もポーターがバスまで運んでくれた。

まずは昼食。有名なレストランらしい。

ノートルダム寺院へ。映画「ノートルダムのせむし男」の場所だ。ブリュッセルでも寺院を見てビックリしたが、ここはそれ以上、びっくり。ステンドグラスがすばらしい。その他もすばらしい。このすばらしさはとても私には表現できない。

コンコルド広場からシャンゼリゼ通りの方へパ

スは行ったが、そこでは航空ショーがあり、しかも日曜日であるために、人たちがいっぱい。車もいっぱいでなかなか私たちが乗ったバスが前へ進めない。凱旋門のほうへ向かった。凱旋門のまわりを通り、エッフェル塔が良く見える場所へ。写真に収めた。

私はいま、パリにいる。なんと、すばらしいことか！考えるだけで、興奮する。

夕食は、自由行動だ。源地さんはオプションツアーに参加したので、私は一人ぼっちになった。

どこで飯を食おうか。あまりわからないので、ホテルの近くにある中華料理屋「中華飯店マンハッタン」にした。餃子とコーンスープ。この食堂にはやはり日本の観光客が多い。しかも日本語が通じるとのこと日本人が入りやすいのだろう。食事後にどこかへぶらつこうと思ったが、雨が降ってきたのでやめた。

第4日目 パリ

今日朝3時ごろ、目を覚ました。

5時ごろ外へ出た。寒い。どこに何があるのかわからない。ガイドさんがくれた地図を片手にとにかくオペラ座の横をとおり、足の向くまま進んで行った。

宿泊のル・グランホテルはこのオペラ座の近くにあったので、どこへ行こうか、オペラ座を目標で帰れまい。足の向くまま進んだ。すると、知らぬ間にコンコルド広場にでた。

早朝の町は人も車もあまりない。広場のそばに観光客向けのお土産売り場のような店があった。そこで、日本語で書かれたパリのガイドブックと写真集を買った。

ホテルへ戻るにはヴァンドーム広場から、オペラ座の方へ行けばいい。オペラ座の近くに来たものの、道が斜めに交差していることと、建物の格好

ブリュッセル — ベルギー

が良く似ているために、迷子になってしまった。それで、カフェバーに入って、片言の英語でホテルを聞いたが、あまり英語がブリュッセルほど通じない。手まねボディランゲージでなんとか意思が通じたようだ。

何度かホテルのまわりで迷子になって、ようやくホテルの場所がわかるようになった。新聞売り場があちこちに朝早くからあった。パリの町にはネオンがみあたらない。

ホテルに戻って、源地さんと一緒に朝食をとった。日本食があったが、飯が硬い。コメがやはり、日本とは違うのだろう。

今日は夕方まで自由時間なので、源地さんと二人で、シャンゼリゼ通りへ行くことにした。コンコルド広場に再び来た。まだ早いせいか、人はあまりいない。昨日はあんなににぎやかだったのに。

シャンゼリゼ通りを歩いて凱旋門の方へ行った。通りにそっていろんな有名メーカーの店が並んでいた。源地さんはセーターを買った。私も別の店でシャツを買った。

昼食は赤テントのカフェテラスで取ることにした。通りにホットドッグ屋さんがあった。そこにはウイスキーも置いてある。ビールはもちろん、日本では考えられない。ホットドッグとウイスキーと一緒に食べるのか。

もう、ホテルへもどることにした。途中源地さん、トイレに行きたいと。あまりトイレが見当たらない。見つけた。小さい。人がいっぱい。2フラン払ったとのこと。

チュイルリー庭園からまた、ヴァンドーム広場を通してホテルへ戻った。源地さんは休むといった。

私はひとりでまたホテルを出た。スリッパのよう(次頁へ)



ブルージュのマーケット広場



朝のコンコルド広場



地下鉄の案内



ブルージュでは馬車が



ルーブル美術館の入り口



地下鉄の中

パリ — フランス

なものを買おうと近くにMarks & Spencerというスーパーマーケットがあったのでそこに入った。そこで簡単にはける履物を買った。ヨーロッパのホテルには日本のようにスリッパをおいていない。西洋ではあまりスリッパをはく習慣がないらしい。スーパーマーケットでもスリッパを見つけることが出来なかった。それで、それに変わる簡単にはける履物を買ったのだ。

三越ETOILEへ鈴木蔵さんの展示を見に行った。志野焼という焼き物だが、赤色がすばらしい。さすが、人間国宝である。会場の裏庭に出ると凱旋門が丸見え。

夜は鈴木先生の主催による晩餐会に私たちは参加した。高級レストランだ。本格フランス料理を生演奏の音楽を聴きながら、楽しんだ。

第5日目 セミナー

今日は一日中、勉強だ。携帯電話関係のこと。町の携帯電話を販売している店を見まわった。fnacという店とオートボックスのような車の部品売り場を見てまわった。

11時からホテルのセミナー室で、BOUYGUES TELECOMという会社から携帯電話に関するお話があった。

昼食には有名レストランだ。エスカルゴ、いわゆるカタツムリの料理だ。本場だけあっておいしい。

昼からはJSTVという、ヨーロッパで日本語テレビ番組を衛星中継で行う会社の説明だ。

セミナーが終わって、私一人でパリの町に出た。どうしてもパリの地下鉄に乗ってみたいかった。

地下鉄に乗って、ルーブル宮殿へ行くことにした。地下に降りた。複雑だ。オペラという駅なんだけどとても広い。しかも、下へ、下へと降りていった。結局ルーブルへはどのようにいけばいいかわからなくなった。駅員に聞く事にした。窓越しに、私は地下鉄の地図をもってルーブルへ行くにはどうすればいいかと聞くと、駅員もガラスごしに地図を広げてこう行くのだと示してくれた。そのようにして、なんとか電車に乗った。日本と違って、ドアは

半自動なので、自分であけないといけない。二つ目の駅がルーブルだ。

降りたが、外へ出る方法がわからない。また、気のよさそうな人に外へ出る方法を聞いた。もちろん、ボディランゲージだ。その人も親切に対応してくれた。

パリの地下鉄は日本に比べて乗りにくい。本当に近いところなんだけれど、だいぶ時間を費やした。でも地下鉄に乗れたことで、なんだか満足感を感じた。

地下から出るとルーブルの真ん前であった。中庭の方へ入った。中にはガラスのピラミッドのようなものがあった。

入り口はここからであった。しかし、ビデオのテープが切れてきた。いつも予備のテープを一本持っているのに、今回はうっかり持っていなかった。時間も遅いし、中へ入ることをあきらめて戻ることにした。

夜の7時からセーヌ川ディナークルーズがある。オプションツアーだが、源地さんが昨日参加してよかったというので参加することにした。

日本人観光客のためのMy busという、観光社があった。ここに私たち以外の日本人観光客たちが集まって一緒にセーヌ川クルーズに参加した。約3時間の観光。船から見るライトアップされた、パリの景色、これはすばらしい。2万9000円。値打ちある。船がエッフェル塔の下を通るときは皆さん陽気に踊りだした。

第6日目 バルセロナ

朝早くパリ空港からスペインのバルセロナへ向けて出発。バルセロナに昼頃到着した。

もちろん、ここもなんの検査もなしに外へ出た。天気がいい。空は雲ひとつない。ここは夏だ。急に暑い。まずは、昼食のために、海岸のレストランへ行った。そこは海水浴場があり、ヨットハーバーがあった。海は青くきれいだ。海水浴場では人々が泳いでいた。また、砂場では男女がねそべっていた。その中には、トップレスの女性もいる。

観光ガイドさんの話。スペインの人たちは土日一所懸命にあそび、月曜から金曜までは体をとと

のえて、また金曜の夜から、土日と一所懸命にあそぶのだと。

このスペイン、金の換算がしやすい。一ペセタが約一円だ。

昼食を済ますとバスに乗って観光に出かけた。バルセロナオリンピックがあった、運動場を廻って、ガウディに関連あるグエル公園へ。ガウディが残したいろいろな作品というのか、残したものがある。ほとんどすべてが、直線ではなく、曲線だし、アンバランスである。この公園で全員の集合写真を撮った。全員の写真はこれが最初で最後。これ一枚だけだ。

サグラダファミリア寺院へ行った。変わっている。今まで見てきた教会のイメージとはがらりとかわっている。あのガウディがかかわっているのだ。ガウディが1884年からこの教会を建て始めていた。いま私たちが訪れたが工事中であった。完成は200年先になるか、いつになるかわからないとのことだ。信仰には教会が完成することより、建設中のほうが重要らしい。

塔に登るのに、エレベーターもあるが、若い人なら、階段で歩いて登ることもできると、ガイドがいうので、私は歩いて登ることにした。狭いらせん状の階段をぐるぐる上った。さすが、一緒に上った人は、はあはあとしんどそうだが、私は毎日大阪城に散歩を行っていた甲斐があって、そんなにしんどく感じない。

上まで登るとなかなか気持ちがよかった。これら、ガウディの作品には、興奮する。どうして、こんなすばらしい作品が日本であまり知られなかったのだろう。それは、私だけが、知るチャンスに恵まれなかったのだろうか。

ホテルに着いた。プリンセサ・ソフィア・インターコンチネンタルというホテルだ。源地さんと夕食を食べに出かけた。レストランよりも軽い食事が出来る場所を探した。

近くにデパートがあった。日本でなら、地下あたりに食堂があるが、地下のほうに行ってみたが、食堂らしきものは見当たらなかった。仕方なく、そこを出てもっと歩いていった。すると、中華料理屋があった。そこにした。日本語が通じた。餃子とにかいいくつか注文したが、やはり口に合わない。食べのこしてしまった。

diagonal通りを歩いた。帰り、パン屋によって、サ

ノートルダム寺院の前



凱旋門の前



源地さん撮影に夢中

団長の安部さん



ンドイチと、ビールを買いホテルへ戻った。

第7日目 セミナー

intercomと言う会社がインターネットに関する話をするため、ホテルに来て講演してくれた。

スペインでは3年ほど前から、インターネットがはやりました。日本より、若干遅れている感じがした。でも、この会社の社長さんの話、考え方などすごく幅広く好感がもたれた。それなりにインターネットの可能性の広いことが感じた。

昼食はまた有名レストランに。子豚のまるやきを分けて出された。味は豚肉の味じゃなく、どちらかというととり肉のような味だった。

バスに乗って観光に出た。モンセラットというところ。かわった岩山だ。結構高い山の上に教会が建てられたもんだ。修道院である。ここに祭っているマリアさまはなぜか黒い肌をしている。

ホテルに戻った。

源地さんは休むというが、私はホテルのまわりを散歩するとホテルを出た。

ホテルの近くにコピーサービス店があった。ドキュメントとかカラーコピー機をおいていた。大学が近所にあるからこんな店があるのだろう。

近くのカフェバーに入った。店の看板はMANGOと書かれてあった。言葉は通じないが陳列しているものを頼んだ。かにの爪、と何かわからないもの。そして、ビール。カニの爪は日本での味とそう変わらない。もうひとつのものは、口に合わず、食べられなかった。

夕方はさわやかだ。寒くも暑くもない。しかも、風はさわやかに吹いている。新聞売り場があったがそこでは、ポルノ雑誌も売っている。

夕食は、Botafumeiroという有名レストラン。海鮮料理だ。すごい！だけど私はあまり食べられなかった。

ここで、はじめて自己紹介をする機会がもたれた。その間、なかなか、みんなそろって話し合う場をもつチャンスがなかった。

私はここでKBSの社内報を配った。KBSをおぼ

えてもらい

たかった。参加者

32人、まだ全員の名前と顔

が合致しない人がある。まあ、この食事が事実上最後の晩餐会みたいなものだ。

みんな、この旅行の感想とか、体験を話しあった。

食後、フラメンコの踊りを見に行くことにした。

十数人が参加した。さすが、スペインは情熱の国だ。迫力のある踊り、心も血も騒ぐ。しかし、私は飲みすぎたのか、途中で眠ってしまった。だから、すばらしい盛り上がりの場面を見ることができずじまいだ。残念。

第8日目 フルタイム

源地さんとタクシーに乗ってミロの美術館へ向かった。今日は一日中自由時間だ。しかも、今日で最後のヨーロッパ滞在の日だ。ミロの美術館に入った。ミロの作品、どこかガウディの影響を感じる。しかし、まあ、私には理解しにくい。

私はひとつ宮崎アニメに出てくる、ある出演のものに似たものを見つけた。これは関連があるのだろうか。

美術館を出て、私たちは地下鉄に乗って、行くことにした。カタロニアへ。切符を買って地下におりた。フランスよりはわかりやすい。地下鉄のかんじもフランスとあまり変わらない。どこへどういくかドアのところにちゃんと表示されているので、行きやすい。

ラムビア通りへいった。人が多い。ほとんどが観光客のようだ。

マーケットに入った。野菜やら、果物いろいろといっぱいある。活気があふれている。通りにはみやげ物のようなものを売っている店が並んでいた。その一つの店に入りみやげ物を選んでいくとき、急に表のシャッターがしまった。どうしたのかと聞くと、ひるの2時から、4時迄の2時間は昼休みで、すべての店などがしまるとのことだ。店から外へは裏口から出た。出てびっくり。すべての店が

バルセロナ — スペイン

シャッターを閉めていた。

夕食はこの通りのテラスで取ることにした。

第9日目 帰国の途へ

朝3時にモーニングコールがあった。バルセロナ空港へ。バルセロナ空港で、免税処理をこの税関の係官にすることにした。してもらえんどうか、心配しながら、頼んでみたところ、OKだ。ラッキー！

バルセロナ空港からマドリッドへ。マドリッドからパリ行きに乗り、パリから大阪へだ。

なんだかまるまる一日を飛行機の中で過ごすことになる。パリ発のエールフランスのボディには韓国のサッカー選手のイラストが大きくかかれてあった。この飛行機によって、12時間パリから、大阪まで行くのだ。

大阪に着いた。団長の安部専務から、荷物が出たら、流れ解散だから、ということで、自然解散になった。

最後になりましたが、この旅行でお世話になった皆様、ありがとうございました。

ラムビア通りにはピエロが



ミロの美術館で宮崎アニメに出てくるようなものが

海岸の砂場で若い男女が抱きあっている



モンセラット



グエル公園



日本へ帰るエールフランスの機体に韓国のサッカーのイラストが

